

大学院教育改革プログラム関係出張報告

平成 20 年 10 月 27 日 講師 浜田良樹

1. 出張の概要

出張日程 平成 20 年 10 月 21 日 (火) ~10 月 26 日 (日) 5 泊 6 日

出張先 米国ネバダ州リノ・ナジェットリゾートホテル会議場

会議名 PODS(Professional Organizational Development Network in Higher Education)

同行者 10 月 24 日~25 日 カリフォルニア州バークレー校滞在中の森本雄太君 (本研究科・システム情報科学専攻徳山研) も会議に参加

2. 出張の目的

- ① U.S.における情報リテラシー教育に関する FD の最新の動向を探ること。
- ② 本プロジェクトを遂行する上での拠点校たり得る大学を探すこと。

3. 出張の成果の概要

① POD とは

POD は、各大学・コミュニティカレッジ等において FD(Faculty Development)を実施しているセンターのスタッフ、コーディネーターなど「FD のプロ」が FD をいかに発展させていくかということを主眼とした会議であり、2000 人の会員がいる。

② POD カンファレンスとは

POD が年に 1 回開いている参加者 900 名以上という会議である。3 泊 4 日にわたり、朝 7 時から夕方 8 時半まで、200 を超すワークショップが開催され、そのすべてがアメリカの FD 流に行われる。つまり、スピーカーがパワーポイントで講義をすることもないではないが、アドホックにテーブルディスカッションを繰り返し、何らかの BEST PRACTICE に気づく。

③ US における FD の最新動向

日本で言う FD という言葉は Instructional Development (ID) として、FD の下位概念になっている。ここには、シラバスの書き方、授業の際に気を配るべきこと、習熟が遅い学生への対応、試験の行い方などの基礎的な話があらかじめ網羅される。

POD はコミュニティカレッジなどをベースとし、学生の学力格差、それどころか語学リテラシー、人種の問題などが激しい。このため多くの大学では「教育へのシフト」を迫られ、徹底した学生本位の教育の在り方を模索し、教員にインセンティブを与えるため、採用、昇進などあらゆる場でティーチングの能力を問う。研究センター大学はごく一部の名門校に限られる。

④ 情報リテラシー教育に関する FD

「情報リテラシー教育」人材というアスペクトが難解で、説明は困難をきわめた。

小職が理解した範囲で必死のヒアリングを試みたが、「情報リテラシー教育」について興味を持つ向きは少ない。また、外国の大学の FD との提携により得られるノウハウやスキルが明確に示せないため、ビジネスとしてのメリットもない。したがって、この種の特種 FD を実現するための「つかみ」は得ることができなかった。

⑤ 今回のプロジェクトにおいて計画されている FD について

今回のプロジェクトに組み込まれている学生向けの FD には、前述の ID を行えば十分である。しばしばこの種のセンターは、博士としての就職を控えた大学院生に対し、夏休みにティーチング能力を鍛えるためのセミナーを企画している。そのセミナーで他の受講生に迷惑をかけない範囲で、かつ実費を支払えば受け入れてくれるのではないかと思料する。教えるスキルを身につけることに興味を持っているポジティブな学生は、現に本研究科にもたくさんおり、1. で述べたように、システム情報科学専攻の学生がわざわざ訪ねてきている。

教員向けの FD であるが、そもそも目指すべき人材が見えていない状況において、各先生が教育のあり方を見つめなおすことを強制するのは忍びない。したがって、教員向け FD は、③で述べたような「教育中心主義」が存在することを感覚としてつかむことを目標とし、訪問と解説を中心としたものにするとうい。

いずれにしても「情報リテラシー教育」人材というアスペクトが明らかになり、プロジェクトメンバーがそれを共有することが重要である。

4. 今後の方針

引き続き、FD の従事者ネットワークをフル活用し、上記のような FD を実現できるよう関係者との調整を進めていく。

11 月には POD と類似した[Lilly Conference]が開催される。この時期に渡米し、併せて今回知己となった、POD プレジデントの Versinia Sue Lee 女史、前プレジデントである Matt Oulett 氏、テキサス州立大学オースティン校の Karron Lewis 女史なども可能な限り訪問し、FD 実施への地ならしとする。

以上